



一般社団法人日本メディア英語学会
Japan Association for Media English Studies



JAMES Newsletter

No. 149

June 5th, 2025

目次

1. 名誉会員 相田洋明先生による記念寄稿
2. 名誉会員 石山宏一先生を偲んで
 - ◆アメリカ英語の新語研究からジャーナリストへ、そして、語学研究者へ
 - ◆ジャーナリストとしての石山氏
 - ◆石山先生から学んだ「時局の洞察と新語のための禁欲生活」
3. 夏季セミナーのご案内（9月7日(日)）
4. 東日本地区研究例会 活動報告および開催予定
 - ◆第106回 東日本地区研究例会・第21回 英語教育・メディア研究分科会
5. 研究分科会 活動報告および開催予定
 - ◆メディア英語談話分析研究分科会（4月12日開催のご報告、及び、6月21日開催のご案内）
 - ◆新語・語法研究分科会
 - 第166回新語・語法研究分科会（2月8日実施）のご報告
 - 第167回新語・語法研究分科会（6月14日開催）のご案内
 - ◆ビジネス英語文化研究分科会
6. 新入会員紹介
7. 日本メディア英語学会（JAMES）第15回（通算第67回）年次大会開催と研究発表・実践報告募集のお知らせ
8. 2025年度新刊テキスト、及び商品・紹介（賛助会員50音順）
 - 1) 金星堂
 - 2) 三修社
 - 3) 成美堂
 - 4) 語学学習支援システム CaLabo® EX.（チエル株式会社）
 - 5) VERSANT™ by Pearson（日経メディアマーケティング株式会社）

~~~~~

# 1. 名誉会員 相田洋明先生による記念寄稿

## 近況報告

大阪公立大学名誉教授 相田洋明

昨年 10 月の第 14 回定時社員総会において名誉会員に推薦頂きました。身に余る光栄であり、あらためてお礼申し上げます。ありがとうございました。

Newsletter 編集長の三田弘美先生から、この機会に何か一言と依頼を受けました。ただ、日本メディア英語学会とのこれまでの関わりについては、Newsletter 第 143 号（2023 年 1 月）の巻頭リレーエッセイで書いたもので、今回は近況の報告と将来のことを書かせて頂ければと思います。名誉会員になっても、ジタバタともがいている姿をご覧ください。

2025 年 3 月で勤めていた大学を定年退職しました。研究室にあった本をどうするかが問題だったのですが、結局、自宅近所にトランクルームを借りました。研究室の片づけをしたあと、3 月 24 日から 4 月 3 日まで、アメリカ・オレゴン州のポートランドに家族で旅行にでかけました。子ども（娘）に外国を見せたかったというのが主な理由ですが、年度末、大学から姿を消して最終講義をパスしたいという気持ちも正直ありました。

ポートランドは良い街で楽しく過ごしました。リベラルな気風の土地でトランプ的な雰囲気は感じませんでした。当地の雰囲気を伝える写真を 1 枚だけ添付しておきます。

ただ、行き帰りの飛行機で娘が酔ってしまい、少しかわいそうでした。娘は今年の夏に学校の行事でオーストラリアに行くのですが、その折にはもっとしっかり酔い止め薬を飲ませたいと思います。

帰国後、まず考えねばならないのは経済問題でした。毎月の給料はもうありません。うかつな私は退職金は 4 月 1 日に支給されるのだらうと思っていました。しかし、実際に振り込まれたのは 4 月末でした。娘の学費の支払いに間に合いません。浮かれてアメリカになど行くのじゃなかったと後悔しても遅いのでした。（学費は何とかかき集めて払いました。）

研究面では、科研費によるアメリカ文学研究（ウィリアム・フォークナー関連）を継続しています。そのために大阪公立大の客員研究員になりました。この 6 月 22 日（日）には、フォークナー訪日 70 年記念イベントとして、長野県（フォークナーはここでセミナーを開催したのでした）で国際ワークショップを開き、発表します。対面と Zoom のハイブリッドでの発表です。私の英語は大丈夫かな？

生活のため、そして社会と関わるため、非常勤にも出ています。今年のスケジュールは、月曜日は大阪女学院大学でアメリカ文学史、火曜日は大阪公立大学阿倍野キャンパスで看護学部学生に英語、木曜日は同大学なかもずキャンパスで現代システム科学域専門科目、金曜日は同大学なかもずキャンパスで理系の学生に英語を教えています。

最後に将来について。10 年ほど前、人間ドックで胸部 CT を撮ったところ、肺に多発性小結節影が見つかり覚悟を決めたことがありました（結局それは水痘肺炎痕で問題なしでしたが）。その時に 3 つの事だけはあきらめきれないと思いました。1 つは家族と過ごすこと、2 つは今自分

が抱えているテーマで論文を書くこと（私が書かなければ誰も書かないだろう）、そして3つはずっと読みたいと思っている本を読むこと（万葉集もプルーストもまだ読んでない）。やりたい事はずっと変わりません。あと何年元気でいられるか分かりませんが、精いっぱい頑張りたいと思います。皆さま引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

ポートランド・ノースイースト地区の雑貨屋さんの店頭の貼り紙



## 2. 名誉会員 石山宏一会員を偲んで

### ◆アメリカ英語の新語研究からジャーナリストへ、そして、語学研究者へ

新語・語法研究分科会 初代代表 須永 紫乃生

秋田高校を卒業し、ICUに合格後、グルー基金を得て、バーモント州ミドルベリー大学へ留学された。タフツ大学フレッチャー法律外交大学院修士課程を卒業して、帰国した頃、日本ではアメリカの大学生が話す俗語や四文字語に人気があった。折柄、明治大学の堀内克明教授が、『アメリカ俗語辞典』を増刷していた。ジャパンタイムズ社の出版部が発足時で、連載原稿の受け取りに私が通っており、机の上に置いてあった本『四文字英語の魔力はきみのもの』に目を止めると、教授は書評を頼まれたと語られた。

石山青年は明大を尋ね、自著の『四文字英語の魔力はきみのもの』（1977年、自由ブックス社）の推薦を依頼したのだそうだ。こうして、堀内先生を介して石山青年と出会った。

「国際化時代」が時代の風で、時事英語がもてはやされ、「商社マン」が急増し、家族同伴での海外勤務も増えていった。日本時事英語学会の誕生は1959年8月、1997年には新語・語法研究分科会が組織された。

1995年、堀内克明先生と石山宏一先生は『ポケットプログレッシブ英和・和英辞典』（小学館）を出版された。（この辞書は、2008年1月28日に第三版が出版され、現在も活用されている）

他方、石山先生は、欧米の主要メディアのみならず、東南アジアにも目を向けて、取材報道を続けていた。

実務英語教育の波は、大学・短大の教員の補強に向かい、石山先生は私が勤務する駒沢女子短期大学に招かれ、実務英語、時事英語、商業英語を担当した。先生はその後、横浜桐蔭大学へ移られた。

新語・語法研究分科会では、常時、研究発表し、良きアドバイザーとして貢献してくださった。取材力と読書力、清明正直な御人柄と交渉力を発揮して、学会のために尽くされた。

---

### ◆ジャーナリストとしての石山氏

小池 温

私は長年「日本郵船」という「国際海上輸送会社」に勤務しましたが、仕事は世界中の取引先と英語で行なわれますので、英語力強化のため、丸の内に所在する「日本外国特派員協会」に、30年前に「アソシエイト・メンバー」として入会しました。

石山宏一氏は、根っからのジャーナリストで協会の「正会員」で、私の知る限り、協会に専用の机も有し、ほぼ毎日朝から夜まで協会に居られました。時事英語の分野では最も著名な堀内克明氏の筆頭弟子だと自ら称し、お二人で『プログレッシブ英和辞典』等、を編纂されたのはご存じのとおりです。

英語の新語につきましては、三田氏に提出する前に、石山氏と色々意見交換をしたのを楽しく思い出しております。

## ◆石山先生から学んだ「時局の洞察と新語のための禁欲生活」

新語・語法研究分科会 代表 三田 弘美

石山先生は、2007年7月から2020年3月まで、小学館のウェブサイト「ランゲージワールド」にて、「石山宏一の新語ウォッチング」と題したコラムを連載されていた。英和編と和英編をあわせ、全176回に及ぶこの連載は、多くの読者にとって貴重な言語研究の記録となった。

私にとって、石山先生はあまりにも大きな存在であり、先生がかけてくださった言葉は、今も宝物のように心に残っている。昨日のここのように鮮明に覚えているのは、私が「CNN English Express」の「時代を映すコトバを探索！新語ウォッチング」（朝日出版社）のコラムで取り上げた新語について、先生が「へ～、この新語、知らなかった。よく見つけたね～」「取材もできたんだ。すごいな～」とおっしゃってくださったことだ。その言葉が、今も新語探求の励みとなっている。石山先生は、まさにアメリカ仕込み(?)の褒め上手な方だった。

2018年11月10日、第142回新語・語法研究分科会での発表「時局の把握の仕方：日英、英日両方やる！」より、先生の日々の膨大なルーティーンを紹介する。

- 1) 邦字紙6紙、英字紙3紙を毎日読むことを基本とする
- 2) ラジオ(AM810のFEN、TBSラジオ、NHK第一、NHK第二)を欠かさず聞く
- 3) テレビ(NHK総合、特に「クローズアップ現代」、Eテレなど)を視聴する
- 4) PCでネットサーフィン(特にGoogleニュース)を行い、新語を発見する
- 5) 新聞の切り抜きやノートパッドへの記録を行い、パソコンに入力後、夜寝る前に覚え、朝起きてから「歩留まり(yield)チェック」を実施

この時、先生は「年齢を重ねるにつれて、余計なことをしなくなるので、覚えやすくなり、記憶力も向上する」と冗談交じりに語られた。そして、笑いながら「早寝早起き、早く帰宅、といった禁欲生活でしかできないんだなあ」ともおっしゃっていた。先生のスリッパな生き方を知り、大きな衝撃を受けるとともに、深く感化されたことを今でも覚えている。

2016年1月以降、年の節目になるたびに、石山先生は「我々はせいぜい4～5年。我々が亡き後も、新語・語法研究分科会を盛り立てて行ってね。頼むよ」とおっしゃった。そのたびに、私は「安心して下さい。皆さん、まだまだお元気ですから、そんなことにはなりません。大丈夫ですよ」と笑いながら答えていた。

新語・語法研究分科会の発展に尽力され、かけがえのない存在であった石山先生。その志を受け継ぐべく、できる限りの禁欲生活(笑)を続けながら、新語研の代表として、新語探求に励み、

また、コロナ禍で困難な状況が続く中、会の存続に尽力された前代表の鈴木理枝先生や皆様のお力を借りながら、会のさらなる発展を目指し、努めていきたい。

石山先生（上段・右から二人目）、堀内先生（下段・左から二人目）と新語研メンバー



本来であれば、堀内先生の右隣には石山先生が座るはずでした。しかし、この日、石山先生は、「発表を終えて疲れているだろう。はい、はい、前に座って」と私に声をかけ、ご自身の席を譲ってくださったのです。先生の気遣いによって、私は思いがけず前列に座ることになりました。

石山先生が亡くなられてから約一年になります。新語・語法研究分科会の皆様とともに、先生を偲び、ご冥福をお祈りいたします。

### 3. 夏季セミナーのご案内

日時：9月7日(日) 14:00-16:30

場所：金沢勤労者プラザ（石川県金沢市北安江 3-2-20）

JR 金沢駅西口より 徒歩 10 分

講師：中日新聞・東京新聞 前口憲幸・七尾支局長

能登半島地震を題材に、地方メディアのリアルについての講演と新聞コラムの執筆体験で新聞表現を学ぶワークショップの二本立て。

#### 講演「能登半島地震の報道、地元メディアからの情報発信」

発災直後から現在まで災害報道を続ける前線基地からの報告。能登9市町を統括する七尾支局の責任者が被災地のリアルを伝える。能登に拠点を置く地元メディアとして、なにをどう伝えてきたのか、どう伝えていくべきなのか。日々ペンを握る取材記者として、地震や豪雨を経験した被災者のひとりとして、いつどこで起きるか分からない大災害の混乱に警鐘を鳴らし、地域に寄り添った情報発信の大切さを紹介する。

#### 講師プロフィール

前口憲幸（まえぐち・のりゆき）中日新聞北陸本社（北陸中日新聞）七尾支局長。金沢大学卒業。北陸本社報道部では、警察司法キャップ、石川県政キャップ、遊軍キャップ、ニュースデスクなどを務めたほか、多岐にわたる調査報道を担当した。海外では米中韓をはじめ、南米や中東、東南アジアで取材経験がある。2023年3月から現職。翌24年元日の能登半島地震以降、被災した支局で災害の現場取材を指揮する。発災から1年間、北陸中日新聞の「能登版」で、1日も欠かさず掌編コラムを執筆。写真付きの囲み記事は、東京新聞の「特報面」にも転載された。24年末には、連続300日分のコラムをまとめ、能登の人たちの肉声、その表情、その景色を季節ごとに追想する書き下ろしを加えて書籍化。単行本「能登半島記（未完）」を時事通信社から出版した。

---

## 4. 東日本地区研究例会 活動報告および開催予定

### ◆第106回 東日本地区研究例会・第21回 英語教育・メディア研究分科会

今回の東日本地区研究例会も、株式会社いづな書店様のご協力を頂き、2025年3月8日（土）に無事に開催されました。各発表内容は、以下の通りです。

#### 第1部：会員発表（14:10～14:40）

発表者：中村俊佑先生（五日市高等学校教諭）

発表題目：「生徒の『できた』を増やす3年間を通したプロジェクト英語の実践」

内容：

本報告では、中村会員が現在勤務している進路多様校での英語授業の実践が紹介された。進路多様校では入学時から英語が「嫌い」、「苦手」と答える学生の割合が高く、そのような学生たちの英語に対する意識を「英語を使って何かを「できる」ようになる「話せる」ようになる・何かを「したいと思える」ようになる」と改革するために、各学年ごとに指導テーマと目標を設定し、TASK 遂行型の授業運営を実施している。例えば、1年生には、「英語って楽しい！」と、英語を使ってコミュニケーションをすることの楽しさを知ってもらうことを指導テーマ・目標に英語での「自己紹介」や「（Show & Tell 形式で）好きなもの・こと・人の紹介」、「Can you ~?」を用いたオリジナルの Skit 発表」などその学年・学期に応じた TASK を設定し、授業運営を行って

いる。また、実際の授業では、生徒が授業に飽きないように 5 分ごとに活動を変えたり、生徒の活動を 7 割として生徒主体の授業を運営したりするなどの工夫も行っている。報告では、「進路多様校での英語コンテストとパフォーマンス活動例・生徒の作品例」として、実際の生徒の活動例・作品例が紹介され、生徒が生き生きと楽しそうに英語の授業で学んだ内容を用いて発表を行っている様子が紹介された。最後に、「評価と振り返り」についての報告もあり、英語の成績上位者との Relay Note の実施など、「誰 1 人取り残さない英語指導のため」の工夫も紹介された。進路多様校にて、ほとんどの学生が英語が「嫌い」、「苦手」という状態から、「英語を使って何かを「できる」ようになる」「話せる」ようになる」だけでなく、「英語を使って何かを「したいと思える」ようになる」ように英語意識を改革するための中村会員の授業運営の工夫や実際の学生の生き活きとした活動の様子が伝わってくる、非常に有意義な報告であった。なお、本報告の内容は中村会員の新著『高等学校 進路多様校の学級経営 & 生徒指導 はじめてガイド』（明治図書）にまとめられている。英語教育に限らず、教育に携わる者必読の書と言えるであろう。

(文責：北村 友宏)

## 第 2 部：招待講演 (14:50～15:50)

発表者：田中 茂範氏（PEN 言語教育サービス代表、慶応義塾大学名誉教授）

発表題目：「英語の語彙力：定義、査定、育成」

内容：「英語の語彙力：定義、査定、育成」

語彙力とはどのようなものか。語彙力と英文読解力の相関は高いので、語彙力があれば英文が読め、各種試験で高得点もとれる。よって、語彙運用力は英語力の最大の指標といえる。しかし教育現場の実情は、語彙指導に困っている教師や語彙学習に困っている生徒が多い。そもそも本格的な語彙力評価の方法が存在しない。

まず、単語力について。第二言語語彙研究の知見によれば、語彙サイズ（頻度情報に基づき、例えば 3,000 語レベルといったもの）、広がり（breadth、単語数(inter-lexical)）と奥行き（depth、多義(intra-lexical)）、親密度（familiarity、例えば、その単語を見たことがあるが意味を知らない、意味を知っているが文中で使えない等）が挙げられる。

次に、従来の単語テストについて。例えば、The Vocabulary Size Test (Nation & Beglar, 2007; Beglar, 2010)がある。これはコーパスの頻度情報を利用し、1,000 語から 2,000 語レベルは高頻度、10,000 語レベルは低頻度等とするものである。

査定について。一般社団法人日本英語教育支援機構が、『英語語彙運用力テスト』Test of English Lexical Competence(TELC)を開発した。「運用力」とは、単に単語の意味を知っていることではなく、英文の産出と理解に使える力である。単語帳で単語をひたすら覚えても使えないし、覚えてもすぐに忘れるので運用力は期待できない。運用力をつけるためには、語彙を有意味な形で覚えるべきである。

語彙力の高め方について。基本語を基盤に、拡張語を育てる。第二言語としての英語の語彙サイズは、8,500 語～12,000 語である。品詞別 3 レベル別データベース(1995-2015, 田中茂範研究室)によると、12,000 語（レベル 3）には、動詞 transgress, wither、形容詞 galling、heinous など必ずしも重要とは言えない語も相当数含まれている。すなわち、語数が問題ではなく、心の中の語彙

ネットワーク (mental lexicon)を重視すべきである。頭の中の単語の存在の仕方は、それぞれがつながりあってネットワークを形成している。しかもそれ1つではなく、その隣にいくつものネットワークを持つ。それらが互いに支え合って語彙ネットワーク(心的辞書)を形づくっている。

語彙運用力について。基本語力に基づいて拡張語力を育てる。基本語力には、使い分ける力と使い切る力があり、拡張語力には、使い分ける力と関連づける力がある。使い分けるおよび使い切るにつき、以下のように考えることができる。

使い分ける

- ・オウムは speak できるが、ゴリラは talk しかできない。
- ・ talking without speaking という状況が可能。
- ・電話で本人が出た際には Speaking であって Talking ではない。

使い切る

- ・「声変わりする」状況で break を使う。
- ・「電話で声が途切れる」状況で break を使う。
- ・「革靴を履きならす」状況で break を使う。

また、語彙運用力では、関連づける力も重要である。例えば、話題に関連づける場合である。furniture に対して、sofa、rug、table などを関連づける力である。

以上から、使い分ける、使い切る、関連づける、の3つの力に重点を置き英語語彙運用力を定義する。そしてこの3つの力に、語彙知識、総合力などを考慮して生まれたのが「英語語彙運用力テスト」である。

最後に、育成について。語彙は、体系的に教えたり学んだりすべきである。つまり、単語を何らかの観点で関連づけるのである。例えば、運動会の観点から、綱引き(tug-of-war)、組体操(group gymnastics)、二人三脚(three-legged race)などをまとめて学習する。覚えるためには、キーボードを打つより手書きの方が、脳に対して効果的である。また、日本語から英語を考えることが有効である。そして、基本語力を身につけるにはコアを考えるべきである。例えばPUTの和訳は、置く、掛ける、入れる、翻訳するなど多岐にわたるが、これらすべての訳語を覚えてもPUTの理解にはつながらない。共通の意味(コア)「何かを元々あった場所から移動させて、あるところに位置させる(プットする)」を理解することが重要である。

(文責：梶原 克巳)

### 第3部：会員発表 (16:05～16:35)

発表者：北村 友宏 氏 (慶應義塾大学博士後期課程)

発表題目：「今さら聞けない統計のお話 (基礎編) Part 1」

内容：

統計学とは、ある集団の特徴を、数字を使って明らかにすることである。統計学には記述統計(データがどんな情報を持っているかを要約して整理すること)と推測統計(調査は一部の人しか調べられていないが、ある集団の様子をそのデータから集団全体の様子を推測する手法)がある。つまり、対象となる全員に調査は不可能なので一部の人たちに調査することが現実的な方法であり、そこから取り出して作り出したものを標本という。このように、統計では、ランダム

サンプリングが前提となっている。ランダムサンプリングをすることで、母集団全体で言えることを推測することができる。無作為抽出によって得られた標本平均の分布は 中心極限定理を繰り返すと正規分布に近づけることができる。研究結果でよく用いられる「統計的に有意である」ことの意味は、今回得られた結果は母集団にも適応可能である(全体に当てはめることができる)ということである。しかし、統計分析の結果が有意であることが2つの変数には必ず関連があるわけではないことに注意をする必要がある。こうした見せかけの相関(疑似相関)に注意を払い、因果関係と相関関係の違いを適切に理解しておくことが重要である。研究の際には、統計的に有意であるという結果の背後にどのような変数が影響している可能性があるのかを考慮に入れることが大切であることを実例と共に学んだ貴重な時間であった。

(文責：中村 俊佑)

#### ◆東日本地区研究例会開催予定

第107回研究例会の開催を、2025年9月6日(土)に予定しております。会場につきましては、決まり次第ご連絡いたします。

-----

## 5. 研究分科会

今回、ご案内の研究分科会は Zoom での参加が可能です。初めての方も奮ってご参加ください。

#### ◆メディア英語談話分析研究分科会 (4月12日開催のご報告、及び、6月21日開催のご案内)

・2025年4月12日(土) 14:00-17:00

形式：ZOOM によるリモート形式

内容：第一部(14:00-16:00)：

Philip Seargeant 著 *The Art of Political Storytelling* 翻訳の読み合わせ

取り扱い箇所：第1章(宮崎康支会員)、第4章(仲西恭子会員)、  
第5章(稲永知世会員)

第二部(16:00-17:00)：上記の翻訳に関する計画の打ち合わせ

内容：当日は第一部にオブザーバー1名を含む8名、第二部に7名の参加があった。

第一部では、上掲書の翻訳及び講読を行った。同書にはドナルド・トランプ氏がアメリカ合衆国大統領の第一期目を務めた時の物語の形成が描かれているが、同書がその内容を論じる際に、アメリカ特有の様々な文化的背景に根差した表現が用いられており、それらを読み解くにあたっての課題が数多く浮き彫りになった。また、翻訳作業の進め方について、従来から存在した技術的な課題のほか、背景知識取得のための生成AIの効果的な利用など、今日的な側面も議論の俎上に上った。

第二部では、分科会メンバーのみの参加とし、分科会の活動方針について討議を行った。

・ 2025 年 6 月 21 日(土) 14:00～17:00

形式：ZOOM によるリモート形式（URL は開催 1 週間程度前に通知）

内容：第一部(14：00－16：00)：

Philip Seargeant 著 *The Art of Political Storytelling* の翻訳の読み合わせ

取り扱い箇所：第 7 章（越智有紀会員）、第 8 章（富成絢子会員）、第 12 章（神徳和子会員）

第二部(16：00－17：00)：今後の活動計画に関する打ち合わせ

なお、第二部は研究分科会メンバーのみの参加とします。

研究分科会メンバー以外でご関心のある方は、可能ならば課題図書 “*The Art of Political Storytelling*” を手許にお持ちください。この本は、政治家のこゝばによる言説の構築を物語論の観点から論じたものです。

参加を希望される方は代表の宮崎康支（yasushi.miyazaki [a] gmail.com \*アットマークに変換してください）までご連絡ください。

ご参加お待ちしております。

メディア英語談話分析研究分科会

代表 宮崎 康支

-----

#### ◆新語・語法研究分科会

・ 第 166 回新語・語法研究分科会のご報告

かつて、堀内克明先生が携わっていた「ユーキャン新語・流行語大賞」において、石山宏一先生はトップ 10 の英訳に取り組まれ、毎年、その成果を研究発表しておられました。また、「Word of the Year – ユーキャン新語大賞、Oxford/ADS など新語について」と題するシンポジウムを実施した年もありました。

今回、このシンポジウムを 5 年ぶりに復活させようとしたが、開催場所のネット環境が不安定だったことに加え、Zoom のトラブルも発生しました。そのため、一部・二部ともに十分な検証や討議の時間を確保することができず、ご参加いただいた皆様には申し訳なく思っております。

6 月 14 日に開催される新語・語法研究分科会では、まず新語の検証と討議の時間をしっかりと確保し、議論を深めていきたいと考えております。

・ 第 167 回新語・語法研究分科会のご案内

日時：2025 年 6 月 14 日（土）14:00-16:00

場所：ZOOM（ID およびパスワードは出席予定者に直前に通知）

1. 新語フォーラム（14:10-15:00）

発表ご希望の方は、6 月 12 日までにレジュメを三田までお送り下さい。A4 サイズのレジュメを作成していただき、最高 3 つに絞り発表してください。お一人様の発表時間は 10 分になります。

## 2. 研究発表(15:05-15:45)

「近年話題になったインターネット・スラングの発音や日本語訳の考察」

発表：東海林 康彦会員

参加をご希望される方は代表の三田<hiromisanda [a]hotmail.com>までご連絡ください。（アットマークに変換してください）

前日に URL、ミーティング ID、パスコード、発表者のレジメをお送りいたします。

皆様のご参加をお待ちしております。

（次回の研究分科会は 11 月 8 日の予定にしております。2026 年度（6 月、11 月）の研究発表ご希望の方は、ご連絡をお待ちしております）

新語・語法研究分科会

代表 三田 弘美

---

## ◆ビジネス英語文化研究分科会

ビジネス英語文化研究分科会では、例会にてご発表いただける方を随時募集しています。発表は 30 分程度（質疑応答含む）で、ビジネス英語などの実務的なコミュニケーションを始め、英語圏におけるビジネス文化、グローバル時代の英語など、幅広くビジネス・英語・文化に関するものであれば何でも結構です。発表ご希望の方は、発表題目と要旨（200 字程度）を武藤（tmuto@kansaigaidai.ac.jp）までお送りください。

ビジネス英語文化研究分科会

代表 武藤 輝昭

---

## 6. 新入会員紹介

このたび、与那覇 美重子様、寺澤 由紀子様、滝田雅実様より入会申し込みがあり、理事会にて入会が承認されました。

Newsletter で新入会員の方にご挨拶をいただくことによって、会員同士の交流を促進し、本会を積極的に活用していただき、会員の方々に研究の裾野を広げ、深めていただきたいと考えております。

1 月に入会いたしました寺澤由紀子と申します。専門分野は、アメリカ文学、特にアジア系アメリカ文学で、記憶の表象をテーマに研究を行っています。研究対象は主に小説ですが、映像、音楽、メモリアルなどにも目を向けています。本学会では、様々な専門分野の方々との交流を通して、知見を広げ、研鑽を積んでまいりたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

寺澤由紀子（岐阜聖徳学園大学）

---

## 7. 第 15 回年次大会予告・研究発表／実践報告募集（旧 社団法人日本

### 時事英語学会 通算第 67 回年次大会）

【大会テーマ】メディア・ことば・バリエーション

【講演】太田一郎 氏（鹿児島大学名誉教授・社会言語学）

「メディアとことばのバリエーション」

【会費】会員：2,000 円 非会員：3,000 円（いずれも昼食交流会費を含む）

学生会員・非会員：一律 1,000 円

※今年は会場校から補助金をいただけるため、昨年より参加費を低く設定しております。

【開催日時】2025 年（令和 7 年）9 月 28 日（日）10 時～18 時

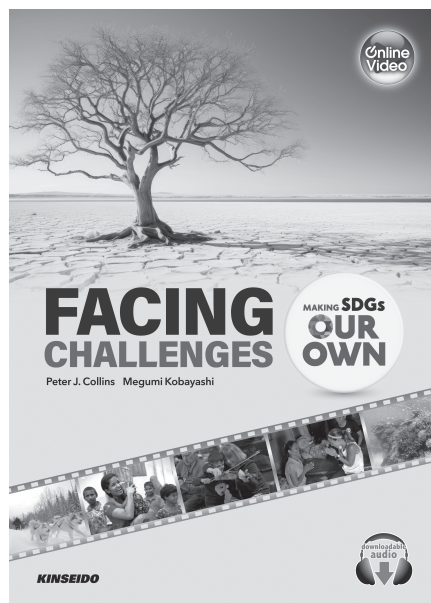
【会場】愛知淑徳大学星が丘キャンパス

〒464-8671 愛知県名古屋市千種区桜が丘 23

---

## 8. 2025 年度新刊テキスト、及び商品紹介（賛助会員 50 音順）

# 2025 年度新刊案内



## Facing Challenges Making SDGs Our Own

世界の映像から考える「自分事として」の SDGs

Peter J. Collins / 小林めぐみ 編著

世界の映像を通し SDGs を自分事として発信！

SDGs に関連する諸問題について、多彩なアクティビティを通してグローバルとローカルの両方の視点で考える、4 技能対応の映像教材。学生自身の感想や考えをクラスメートと共有するアクティビティを随所に設け、学生が SDGs に向き合い、英語で発信する力を伸ばします。教授用資料には復習用小テスト収録

¥ 3,200 (税込 ¥ 3,520)

B5 140 pp. 全 14 章

978-4-7647-4223-9

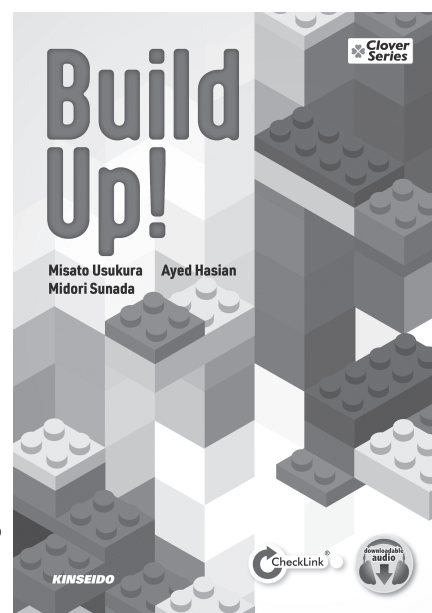
## Build Up!

積み上げ式基礎英語

臼倉美里 / 砂田緑 / Ayed Hasian 著

語句や文法を無理なく飽きさせずに繰り返して  
基礎を身に付ける「積み上げ式」メソッド

英語に苦手意識を持つ学生たちに「無茶をさせないこと」と語句や文法などを「飽きさせずに繰り返させること」にこだわった「超リメディアル向け」総合教材。達成感や英語学習の楽しさを見つけられるような授業の実現を目指し、多彩な工夫を凝らして作られています。教授用資料には Spot Dictation を収録



¥ 2,100 (税込 ¥ 2,310)

B5 92pp. 全 15 章

978-4-7647-4221-5



株式会社 金星堂

東京都千代田区神田神保町 3-21 (〒101-0051)

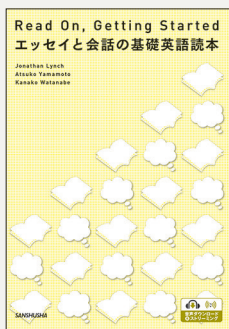
Tel 03-3263-3828 / FAX 03-3263-0716

e-mail [text@kinsei-do.co.jp](mailto:text@kinsei-do.co.jp)

<http://www.kinsei-do.co.jp>



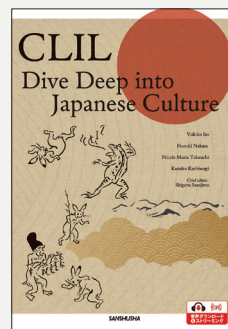
# 2025 年度新刊英語テキスト



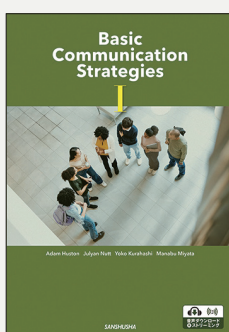
エッセイと会話の基礎英語読本



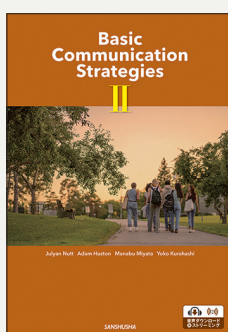
〔超入門〕考える基礎英語読本



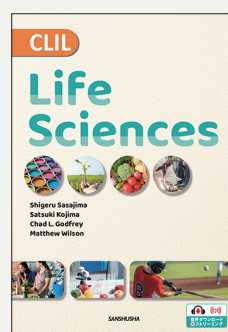
CLIL 英語で伝える  
日本の伝統文化・伝統工芸



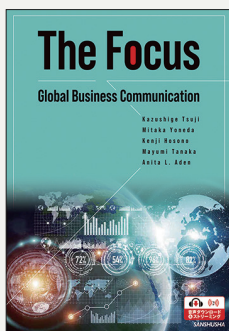
ベーシック・コミュニケーション  
ブック 1



ベーシック・コミュニケーション  
ブック 2



CLIL 英語で考える  
身のまわりの科学と生活



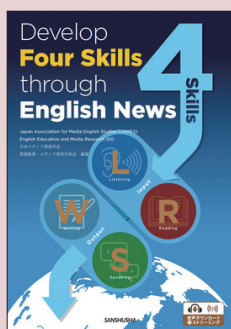
グローバルキャリアへのステップ

弊社 HP で内容見本や音声サンプルを  
ご確認くださいませ→



〒150-0001 東京都渋谷区神宮前 2-2-22  
TEL 03-3405-4511  
FAX 03-3405-4522  
text@sanshusha.co.jp

**SANSHUSHA**



## ニュース英語で4技能を鍛える

日本メディア英語学会 英語教育・メディア研究分科会 編著

好評テキスト

- ・英語ニュースを通して情報をインプット、アウトプットへの展開を目指した総合教材。
- ・ニュース記事の語彙レベルは、4000語でのカバー率60%以上（平均67.4%）、CEFR B2でのカバー率69%以上（平均75.9%）。
- ・科学や環境など幅広いジャンル選定。5W1Hの質問からYes/Noとその理由までアウトプットできるよう展開。

B5判・104頁（全14課）定価1,980円

# SEIBIDO 2025 NEW TITLES

## English Across the World

世界をめぐる発信型総合英語

総合教材・コミュニケーション

佐藤 明彦 Richard Heselton 共著

●定価 2,200 円(税込)

## Daily English for College Students Book 1

〈場面・機能別〉大学生のための英語 Book 1

総合教材・コミュニケーション

中西 のりこ 平井 愛 Mary Ellis 共著 ●定価 2,310 円(税込)

## Science Alive

知って得する日常の科学

総合教材・科学

石井 隆之 岩田 雅彦 Joe Ciunci 共著 ●定価 2,200 円(税込)

## Reading Palette Blue -Intermediate-

英文読解への多面的アプローチ〈中級〉クリティカル・リーディング

総合教材・リーディングスキル・クリティカル・リーディング

武藤 克彦 Bill Benfield 共著 ●定価 2,090 円(税込)

## Active Reading Strategies Book 2

リーディングスキル

角山 照彦 LiveABC editors 共著 ●定価2,750円(税込)



## Where to Next? -Travel and Tourism Communication

観光・海外旅行のための英語コミュニケーション演習



リスニング・スピーキング・観光英語

James Bury Anthony Sellick 堀内 香織 共著 ●定価 2,640 円(税込)

## Let's Write & Learn English!

-From Sentence to Paragraph-

総合教材・ライティング

基礎から始める英語ライティング 一文からパラグラフ・ライティングまで



角山 照彦 Timothy F. Hawthorne 共著 ●定価 2,530 円(税込)

## CBS NewsBreak 7

CBS ニュースブレイク 7

オンライン映像教材・ニュース

熊井 信弘 Paul Daniels Stephen Timson 共著 ●定価 2,860 円(税込)

## Deliver Your Message: Enhancing Presentation Skills with Videographics

ビデオグラフィックスを活用した英語プレゼンテーション演習



オンライン映像教材・プレゼンテーション

宍戸 真 高橋 真理子 Kevin Murphy 共著 ●定価 2,970 円(税込)

## Reuters Global News Feed

ロイターニュースが伝える世界の今

オンライン映像教材・ニュース

小林 敏彦 Bill Benfield 共著 ●定価 2,860 円(税込)



## English for the Global Workplace

映像で学ぶ場面別ビジネス英語

オンライン映像教材・ビジネス

塩見 佳代子 Matthew Coomber LiveABC editors 共著

●定価 2,860 円(税込)



## BEST PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST -Pre-Intermediate-

TOEIC® L&R TEST への総合アプローチ -Pre-Intermediate-

TOEIC® L&R TEST 総合対策

吉塚 弘 Graham Skerritt 共著 ●定価 2,750 円(税別)



## COMPREHENSIVE PRACTICE FOR THE TOEIC® L&R TEST

TOEIC® L&R TEST 総合対策

TOEIC® L&R TEST 600 点への徹底演習

Jonathan Lynch 委文 光太郎 共著 ●定価 2,530 円(税別)



## TOPIC-FOCUSED APPROACH TO THE TOEFL ITP® TEST

TOEFL ITP® TEST

頻出トピックで攻略する TOEFL ITP® TEST 実践演習



小倉 雅明 青田 庄真 関谷 弘毅 Arnold Arao 鬼頭 和也 佐藤 健 共著

●定価 2,640 円(税込)

## Meet the World 2025 -English through Newspapers-

メディアで学ぶ日本と世界 2025

総合教材・時事英語

若手 保彦 編著 ●定価 2,310 円(税込)

## Our World, Our Stories

変動する世界と現代社会の再発見

社会問題・リーディング

Dave Rear 著 ●定価 2,200 円(税込)

## Exploring Liberal Arts in the 21st Century

21 世紀の国際教養

リーディング・ライティング

日本国際教養学会 編 ●定価 2,200 円(税込)

## Care for All

-Effective Patient Communication for Healthcare Workers-

医療従事者のためのやさしい英語コミュニケーション

総合教材・看護・リハビリテーション・コミュニケーション

田中 博晃 眞砂 薫 共著 ●定価 2,420 円(税込)

お問い合わせは

株式会社 成美堂

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町 3-22

TEL 03-3291-2261 / FAX 03-3293-5490

URL <https://www.seibido.co.jp> e-mail: [seibido@seibido.co.jp](mailto:seibido@seibido.co.jp)

●見本テキストをお送り申し上げますので、電話、メール、弊社ホームページ等でお申込みください。

## 語学4技能学習に特化した クラウド型のMALLシステム

### 語学4技能の 学習支援

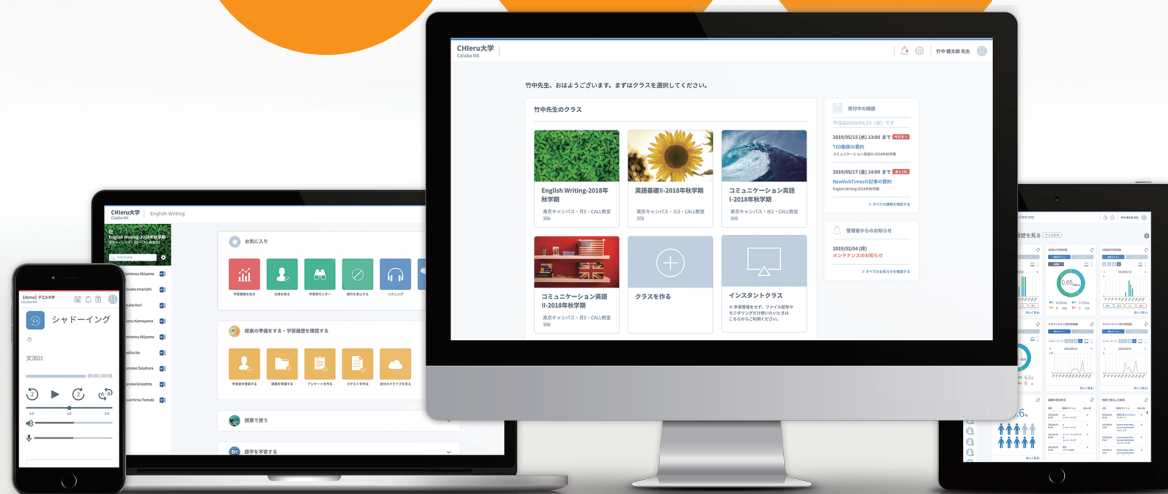
4技能に対応した  
学習支援機能が充実。

### 導入コスト 運用負荷の低減

導入コスト・運用負荷を  
抑えます。

### 学習履歴を 一元管理

PCもスマホも！  
学習した内容を一元管理。



MALLとは、“Mobile Assisted Language Learning”の略。ノートPCやスマホなど可搬性のあるモバイル端末を利用した語学学習を指します。

### 語学4技能の学習に対応した豊富なアクティビティ

AIを活用した  
機能も搭載！

### 学習履歴を一元管理



- リスニング
- シャドーイング
- ディクテーション
- 部分ディクテーション

音声速度や音量の調整、A-Bリピート  
などリスニングに便利な機能を搭載。



- シャドーイング
- レコーディング
- 発音矯正\*

\*ライセンスの形態により、  
ご利用できない場合があります。

シャドーイングや読み上げ音声録音など。  
音声認識により、一部のアクティビティで  
自動採点を実現。



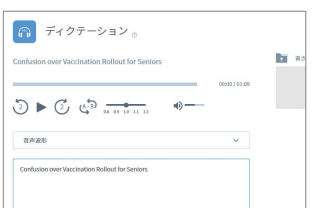
- リーディング
- 英文要約
- 語彙クイズ

リーディングの補助として、単語の早引  
きや「My単語帳」への登録、習得済み単語  
の色分けが可能。



- ディクテーション
- 部分ディクテーション
- 英文スクリプト要約

ディクテーションでは聞き取った英文を  
書き取り、その内容の自動採点を実現。



# 企業が選ぶ 英語スピーキングテストの 決定版

ヴァーサント

VERSANT<sup>TM</sup>  
by Pearson



PERSOL



SMBC日興証券

MUFG  
三菱UFJ銀行

TCS  
TATA CONSULTANCY  
SERVICES

TORIDOLL→

TORAIZ

PROGRIT

VERSANT への切り替え増えてます！

国内約 **500** 社が導入

本当のビジネス英語スキル、可視化できていますか？

世界 **160** カ国 年間 **300** 万人 が受験

スマホ・PC 完結で、手軽に実践的な英語力を測る世界標準のテスト

●最新の AI でブレない判定 ●負担を軽減する管理者ツール etc...

採用に

研修の効果測定に

昇進・駐在基準に

## VERSANT CP (Corporate Program)

- VERSANT CP Speaking & Listening 6,000 円 (税抜)
- VERSANT CP Writing 4,000 円 (税抜)
- VERSANT CP 4-Skills (Placement) 7,000 円 (税抜)

□お問い合わせ

日経メディアマーケティング株式会社  
グローバル事業室  
global-jigyo@nikkeimm.co.jp

まずは担当者・少人数で  
体験したい！

法人ご担当者様向け  
VERSANT トライアルフォーム



日本メディア英語学会会報

2025 年 6 月号（通巻 149 号）

発行：一般社団法人日本メディア英語学会

〒718-8585 岡山県新見市西方 1263-2 新見公立大学健康科学部内 山内 圭 研究室気付

TEL: 0867-72-0634（代表）

URL: <http://james.or.jp>

Email: [office@james.or.jp](mailto:office@james.or.jp)

発行人：山内 圭

編集人：三田 弘美